

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
489 交通安全対策事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	6	安全で安心な市民生活の確保
施策	1	交通安全対策の推進
取組方針	1	市民の交通安全意識の普及啓発

事業種別	継続		
事業期間	～		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	第10次和歌山市交通安全計画		
担当課・担当課長・Tel	地域安全課	橋崎 敬之	435-1005
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他	○		
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		総務管理費	
	目		地域安全費	
	大事業		地域安全事業	
	中事業		交通安全対策事業	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にする)ための事業か 市民を交通事故から守るために、交通安全教室や広報活動等の啓発を行い、また各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。		全体事業概要 和歌山市交通事故防止市民運動推進協議会の助成補助を行うとともに同会と共同での保育所(園)・幼稚園への幼児交通安全教室の実施や、交通指導員連絡協議会・交通安全母の会連絡協議会等の交通安全関係団体と連携し、全国交通安全運動や交通安全県民運動への参加協力。			
	事業内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。		幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、また特に高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。	幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、また特に高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。	幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、また特に高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。	幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、また特に高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。	幼児を交通事故から守るため、市内幼稚園、保育所を対象に交通安全教室を開催する。 市民に対し、また特に高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るよう広報活動等の啓発を行う。 各種交通安全関係団体の育成・補助・指導を行う。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	6,782	6,714	6,696	6,593	6,791	6,646	6,770		6,770	
伸び率(%)	-	-	▲1.3%	▲1.8%	1.4%	0.8%	▲0.3%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	30,124	26,794	27,298	27,887	28,940	27,275	26,553		26,553
	正規職員以外	1,265	1,334	1,751	1,767	714	591	1,346		1,346
	小計	31,389	28,128	29,049	29,654	29,654	27,866	27,899		27,899
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源(税等)	6,782	6,714	6,696	6,593	6,791	6,646	6,770		6,770	
所要人数(人)	正規職員	4.05	3.52	3.59	3.51	3.64	3.42	3.33		3.33
	正規職員以外	0.85	0.85	0.80	0.80	0.47	0.37	0.85		0.85
主な予算内訳	負担金、補助及び交付金 5,685千円 自動車借上料 379千円 駐車場使用料 209千円 等									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 幼児交通安全教室の開催回数	回	目標値	70	70	70	70	70
		実績値	73	73	74		
		達成度(%)	104.2%	104.2%	105.7%		
活動指標 高齢者の啓発人数		目標値		1,000	1,100	1,200	1,300
		実績値		3,140	1,950		
		達成度(%)					
成果指標 交通事故発生件数(1月～12月総計)	件	目標値	2,000	2,000	1,400	1,300	1,200
		実績値	1,549	1,356	1,210		
		達成度(%)					
成果指標 交通事故死者数(1月～12月総計)	人	目標値	17人以下	17人以下	17人以下	17人以下	17人以下
		実績値	12	8	8		
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	交通安全教育が道路交通の安全を確保するための重要な手段であり、達成目標等を十分に把握した上で、現状の交通安全教育を実施することが必要である。
見直し・改善内容	<p>幼児教室については、平成25年より案内だけでなく開催希望日記入の申込書に変え、市内すべての保育所(園)・幼稚園に送付したことにより、開催件数を増すことができた。</p> <p>また、現在和歌山市交通事故防止市民運動推進協議会において、事務局と各種団体が協力して、幼児から高齢者まで幅広く交通安全教室や啓発運動を行っています。未就園児や保護者にも交通安全教育に参加してもらえる場をつくらせたり、高齢者が加害者や被害者にならないように、加齢に伴う身体機能の変化を認識・理解させることによる交通安全啓発を推進する。</p>